

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
専門学校麻生看護大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 3 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、専門学校麻生看護大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	皆川 悦子	日本赤十字社 嘉麻赤十字病院(看護部長)
高等学校	下田 真一	福岡県立嘉徳高等学校(校長)
地域住民	野見山 昌光	地域民生委員
卒業生	井原 資子	社会保険 田川病院(看護部長)
保護者	矢野 幸一	

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年6月30日(水) 14:00 ～ 15:10

場所：専門学校麻生看護大学校 本館 1A教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

3-5-4 教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。

4-1-4 退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率を低減するための改善を図っているか。

【取組み状況】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学校運営全般を大きく変更せざるを得ない状況が発生し、重点項目についても、十分な改善活動を実施することができなかった。

教員に対する実務研修は、病院の受け入れ状況から今年度は見送った。

退学率の低減に関しては、教務会議での学生情報共有の徹底により支援、指導方法の統一を図り、通信課程ではクラス（チューター）運営支援体制を敷き、学生支援を充実させた。

【総括（成果と課題）】

教員の実務研修については、新型コロナウイルスの感染状況、カリキュラムの改定、教員の専門領域を勘案して実施計画を策定していく。

退学率の低減は、今年度の取組みにより一定の成果を上げることができた。今後は学生の修学支援、生活支援の方法について、現状の取組み状況の検証や他校の成功事例研究等をもとに新たな取り組みを模索していくことが課題である。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

法人の理念、学校の教育理念を踏まえ、学科の目的・育成人材像を設定し、学校構成員たる学生、教職員には入学事前説明会、学生要覧、学内専用 web サイトに掲載、入職時オリエンテーション、キックオフを通して周知に努めた。非常勤講師・添削指導員・臨地実習指導者には、講師会議等で説明し周知に努めている。さらに、公式 web サイト、学校案内パンフレット等で社会への公表を続けている。

【課題】

法人の理念、学校の教育理念を踏まえ、かつ社会構造の変化による関連法規の改定に合わせ、学科の目的・育成人材像を定期的に検証し、常に社会のニーズに合った人材像を設定していくことが課題である。

【今後の取組み】

2022年度、2023年度の看護師養成に係る関連法規の改正に向け、各学科の目的・人材育成像の再設定を行い、ステークホルダーへの周知、社会への公表の準備を行う。

【学校関係者評価委員からの意見】

理念等明確であり適正である、との評価を得た。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

学校の運営方針を定め、方針に沿った事業計画を策定し、全教職員へ周知している。

人事に関しては、新型コロナウイルス感染予防の観点で各種対応を行っていたが、人事に関する規則面についても同様に対応を行っていった。各規則については適時共有を行い、整備運用を進めた。

学校業務を支援する事務組織について、運営を円滑に行うため、一部組織及び業務分担の変更を行った。

【課題】

新型コロナウイルス感染予防対策や働き方改革に伴い、現状の規程と実態との乖離が見られる部分が出てきている。

変更した事務組織体制により円滑に業務支援できるようにし、業務に合わせた個人の資質向上のための研修計画の策定と実施、教務と事務との連携強化が課題である。

【今後の取組み】

社会環境の変化と共に人事に関する制度改革が求められるフェーズにあり、2022年度からの新制度施行に向けて着手し始めている。

多様な働き方に対応した学校運営体制を改善するとともに、実行できていない事務職員の意欲・資質の向上を図るための研修計画策定とその実施を重点的に取り組んでいく。

【学校関係者評価委員からの意見】

コロナ禍で実習等を変更せざるを得なかったことも多かったと思われる。適宜、円滑な対応をされている、との評価を得た。

教育理念、教育目的及び育成人材像に沿った教育課程の編成・実施について

【総括】

学校の教育理念、教育目的及び育成人材像に基づくディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し教育課程を編成し実施している。両ポリシーはホームページ上に明示し、社会に公表している。

2022年度のカリキュラム改正にて求められる看護基礎教育を本校の教育理念に沿った教育課程を編成すべく検討を重ねている。

【課題】

求められる看護基礎教育と教育理念から教育課程まで一貫性があるか、効果的な教育が実施できるかの検証が課題である。

【今後の取組み】

現教育課程から新教育課程への移行に向けた準備に取り組んでいく。

【学校関係者評価委員からの意見】

コロナ過での教育活動のため、制約・制限があると思いますが、教育目標達成に向け取り組んでください、とのお言葉を頂いた。

教育課程の編成・実施方針に基づく教育課程・教育内容について

【総括】

教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づき、体系立てて編成・実施している。実施した教育については、教育課程編成委員会を開催し外部有識者からの意見も取り入れつつ、教務会議にて進捗状況が計画した進捗表、シラバス通りに進んでいるか、教育内容、方法、指導が適切であったかを評価・検証している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により授業進度に影響が出て評価・検証が不十分であった。

リメディアル教育は、早期に入学が決定した方を対象に看護に興味関心を持つ教育を実施し、キャリア教育については、教育課程、学校行事を通して職業観や主体的に自らキャリアを切り拓いていく姿勢を身につける教育を行っている。

【課題】

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、教育課程、学校行事が従来のように実施できないため、いかにして教育目標を達成し、職業観を身に付け、主体的に行動できる学生を育成するかが課題である。

【今後の取組み】

従来の対面での教育方法に加え、遠隔での効果的教授方法や主体的に学習に取り組む姿勢を身につけるための仕組み、キャリア教育の在り方を模索し、検討していく。

新型コロナウイルス感染症の影響で授業進度に変更が生じた場合、教育内容、方法が適切で効果があったのかをより細かく評価・検証していく必要がある。

【学校関係者評価委員からの意見】

新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの学習を Web 上での経験となり、指導も難しかったと思われる。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中での主体的に行動できる学生を育成するため、どのような計画をされているのか、具体策等を確認したい、また、高等学校でも異学年交流ができなかったことでの問題は感じているが、本校ではどのようなであったかとの質問があり、本校の取組みの具体的内容の説明を行った。

自病院では、新人の状況が多様（卒業校によって、実習に行けた人、全く行けなかった人）で、例年に比べ実際どれだけの差があるのかスタッフに示すことができずにいた。しかし今回、このように新人看護師が実習に行けていないことで、どのように影響したのか可視化されていると、迎え入れる側のスタッフにも事実として伝わりやすいと感じた。この一例が、とても分かりやすく興味深く良かった、との言葉を頂いた。

教育の評価について

【総括】

教育の評価は、カリキュラム会議にて教育課程全般、教務会議等にてシラバスの評価を行っており、科目ごとの学生による授業アンケート、クラス担任の教員についてはクラス運営等に関するアンケートにて教育方法、スキル等の評価を行っている。外部に依頼している短時間の授業については、試験結果と学生への聞き取りにより授業評価している。

【課題】

カリキュラム改正及び新型コロナウイルス感染症の影響により教育内容、教育方法の大幅な変更を要するため、授業の評価方法もICTを活用する等、新たな評価方法を構築していくことが課題である。

【今後の取組み】

新型コロナウイルス感染症の影響下で実施した授業の評価と改善、カリキュラム改正後の教育課程、学習進捗を見据えた授業計画の策定、実施と評価の体制の構築に取り組んでいく。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし。

成績評価と単位認定について

【総括】

各科目の成績評価の方法はシラバス等にて学生に明示し、単位認定会議、卒業判定会議は毎年度末に規程に従い厳格に実施している。2020年度より施行の「科目履修、単位認定及び卒業に関する規程」に不備、不具合がなかったかどうか検証を行う。

【課題】

科目によって評価者の人数、配分、評価方法も異なるため、学生が出席日数を間違いなく主体的に把握できるようになることが課題である。

【今後の取組み】

カリキュラム改正後を見据え、成績評価の方法について、規程の再検証を行う。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし

教育活動を確実に実践するための教育体制の整備、教職員の能力開発のための資質向上の取組みについて

【総括】

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、その他学校運営に係る法律、ガイドラインに則り各分野・専門領域の専任教員、非常勤講師及び添削指導員を配して運営を行い、カリキュラム上学生に不利益なく適切に実施している。通信課程においては、カリキュラム上、学生に不利益なく適切に実施できているが、専任教員の組織体制が不十分な状況にある。

新型コロナウイルス感染症の影響で教員の専門性を高める研修、学会の殆どがWEB開催となったため、これまでより多くの研修に参加することができた。また、臨床現場から離れた教員の臨床研修は感染拡大防止のため実施を見合わせた。

【課題】

新入教職員の教育現場への順応を支え、指導力を身に付けることが課題である。

【今後の取組み】

新入教職員へ適切な時期に十分に業務に関する説明すること、業務担当を適切に配分すること、指導するチューターを配置し、定期的に面談を実施すること、指導力を高める研修等への積極的な参加を促す。

【学校関係者評価委員からの意見】

現在の新人教員の人数と教員養成講習会受講状況、教員の能力開発の状況についての質問があり、全教員の教員歴、研修会の受講状況についての説明を行った。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

学修成果として国家試験合格を目標に掲げ、学科の試験、模試の結果を分析、強化が必要な学生へ分野・科目ごとに補講等の対策を講じる体制を整え実行している。看護科は2019年度も100%、通信課程も過去最高の実績を残すことができ、今年度も順調に国家試験に向かい取り組んでいる。

また、退学率の低減に向けての取り組みを行った結果、一定の成果を上げることができた。

【課題】

今年度卒業する学生の専門職としてのキャリア形成への適応性を注意深く見守り、就職先と連携を図り支援していくとともに、それを踏まえた在校生のキャリア教育の在り方を改善するのが課題である。

【今後の取組み】

多様な背景を持つ学生に対し、早期に看護専門職者を目指す意識を持たせ、主体的に学習を行うことができるよう具体的支援策を検討していく。

【学校関係者評価委員からの意見】

退学率についての質問があり、近年の入学者数、退学者数及び退学理由について説明を行った。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で修学支援、進路支援、学生相談、経済的側面に対する支援、健康管理、生活環境、保護者との連携、すべての面で従来の支援とは異なった方法や新たな支援が必要となった。

卒業生への支援が十分に行えず、課外活動を行うことができなかった。

【課題】

今年度行った新たな支援方法の検証と、引き続き、コロナ禍での学生への効果的な各種支援、卒業生への支援を実施していくことが課題である。

【今後の取組み】

保護者との連携について、新たな連携方法の構築と、特に今年度卒業する学生への支援を積極的に行っていく。

卒業生との懇親会をリモートで実施するなど支援方法を検討する。

【学校関係者評価委員からの意見】

とても丁寧な学生支援をされているとの評価を卒業生や保護者からの声を聞く、との言葉を頂いた。

コロナ禍での支援方法等が今後の課題にあがっており、新たな支援方法を病院や施設とも相談して見つけてほしい、との意見やコロナ禍によるメンタルフォローの状況について質問があり、本校の病院との連携状況、学生への支援状況についての説明を行った。

卒業生の臨地実習期間、就職後の影響についての質問を頂き、今年度卒業生の実習実施状況、入社前研修の実施、就職先へ臨床経験不足を考慮した新人教育を実施してほしい旨の要望を行ったことについて説明を行った。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

教育運営に支障を生じさせない教育設備の整備について

【総括】

看護師養成に必須の実習室内の設備備品、図書等については、年 2 回の点検により維持管理を行い、教育運営に支障を生じさせないようにしている。

今年度はすべての教室の床の張替え、不具合のある椅子の交換、天吊りプロジェクターの設置、換気機能の修繕強化を行い、効果的に、快適に学習できるよう環境整備を行った。

【課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により学び方が変化しているため、学習の理解度を深められる DVD 教材等効果的な補助教材を整備し、学生が積極的に活用する環境を整えることが課題である。

【今後の取組み】

経年劣化した施設設備を順次改修していき、環境を整えるとともに、視聴覚教材を充実させ ICT を活用した教材を充実させる取組みを行っていく。

【学校関係者評価委員からの意見】

寮内のインターネット環境を整えたところで緊急事態に対応することになり、新型コロナウイルス感染拡大防止のリモート授業に間に合い学生が不自由なく授業が受けることができた、との言葉を頂いた。

教育環境の適切な維持について

【総括】

教育課程に沿った臨地実習を行うため、実習の目的、目標、実習評価等について臨地実習要綱にまとめ学生へ提示し、実習施設及び実習指導者へは実習前に事前に要綱に基づく時期、期間の協議、指導方法の説明等を行い、協定書を結んで実施している。今年度は特に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨地実習の多くを臨床から学内へ切り替え、各教室へ消毒液を設置するなど健康管理体制の強化等を行った。学校における安全管理については、防火・防犯設備は年2回の定期点検を行い防火管理者が確認を行っている。

【課題】

従来の安全対策に加え、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上での充実した教育環境の提供を行っていくことが課題である。

【今後の取組み】

臨地実習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、実習施設と協議しながら実施していく。また、安全管理に関しても引き続き感染防止策を最優先して実施していく。

【学校関係者評価委員からの意見】

新型コロナウイルス感染症の影響で臨地実習から学内へ切り替えられたが、教育の質は担保されていたと感じた、との言葉を頂いた。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

アドミッション・ポリシーは、公式ホームページや学校案内パンフレット、募集要項に記すなど幅広く周知している。募集活動では、オープンキャンパスや九州各地での説明会にて本校の教育内容、教育の成果等をより正確に提供するように心掛けている。入学者選考においては、基礎学力、学習継続能力、コミュニケーション能力や学習意欲を評価する基準を設け公正な選考をおこなっている。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでのオープンキャンパスや説明会を実施し、本校の情報を提供できるよう努め、入学選考についても徹底した感染防止策を講じた上で実施した。

【課題】

コロナ禍で本校の教育内容、教育の成果をいかに正確に安全に提供できるか、また、安心してオープンキャンパス等に参加していただき、本校の魅力を伝えるかが課題である。

【今後の取組み】

従来の募集媒体に加え、本年度から取り組んでいるオンライン説明会、映像を活用した本校教育内容の提供などより安全に効果的に本校の情報が伝わる活動を行っていく。

【学校関係者評価委員からの意見】

オンラインでオープンキャンパス等を実施し、工夫されている、との言葉を頂いた。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。監査は、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。財務情報は、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

安定的かつ継続的な財務基盤により、安全安心な教育環境を整備していくことが課題である。

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」、「看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン」、「専修学校設置基準」「福岡県私立専修学校設置認可取り扱い基準」に定められた規定を遵守して運営を行っている。その他、個人情報保護、ハラスメント防止、リスクマネジメントに関する規程、各種マニュアルを整備し、教職員の研修等を行っている。

【課題】

社会情勢の変化により 2022 年度に看護師養成所のカリキュラム改正が行われる。改正に関する情報収集を行い、社会の求める看護師を育てる学校づくりのための準備を引き続き行っていくことが課題である。

【今後の取組み】

カリキュラム改正に向け、本校独自の教育課程の確立、法令を遵守した運営を行っていくための学則、規程の整備を行っていく。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

教育の質保証の仕組みとして、自己点検・評価、学校関係者評価を行い、ホームページ上で社会に公表している。

今年度も全教職員で自己点検・評価を行い、教育の質の向上のための改善項目の点検、共有を行った。

【課題】

年度途中の課題解決に向けた取り組み状況の共有がなされておらず、年間を通して自己点検の意識を持ち、改善活動を行うことが課題である。

【今後の取り組み】

期中での改善活動の情報の共有の場を設け、進捗状況の確認、不足している活動について共同して実行する意識を持ち、改善活動を維持・向上させるよう取り組んでいく。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

社会貢献・地域貢献活動として、行政、看護協会等からの依頼による看護教員教育や准看護師研修会への講師の派遣、高等学校等で行われる職業教育に関する講師の派遣を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、職業教育に関する講師派遣、学生のボランティア等満足のいく活動ができなかった。

【課題】

コロナ禍において本校が取り組める社会貢献・地域貢献活動の在り方を検討し、新たな取り組みを実施する体制を整えることが課題である。

【今後の取り組み】

看護専門職者として期待される役割、新型コロナウイルス感染症を意識して、全教職員及び学生が感染蔓延状況下でもできる活動を模索していく。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【総括】

本校はアメリカコロラド州デンバーにある Spring International Language Center（語学学校）へ1年間の語学を中心とした留学を平成8年より継続している。留学生は定期的に学校と連絡を取り、留学先では在住日本人の方へ相談できる体制を整備するなどのバックアップ体制を敷いている。SILCでは本校独自のプログラムとして、医療・看護、社会制度の学習、医療・福祉現場の見学も含む学習が一定条件により可能である。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、長期留学、法人主催の短期語学留学、日本に留学している外国の方との交流もすべて見合わせた。

【課題】

新型コロナウイルス感染症終息後の活動再開の準備を行うとともに、コロナ禍においてできる異文化交流、国際交流を新たに作り出すことが課題である。

【今後の取組み】

コロナ禍であるからこそ、グローバルな視点を持ち、専門性を有効に活用して社会・地域貢献ができる活動ができないかを模索していく。

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし

以上